りそなグループのCSR（企業の社会的責任）

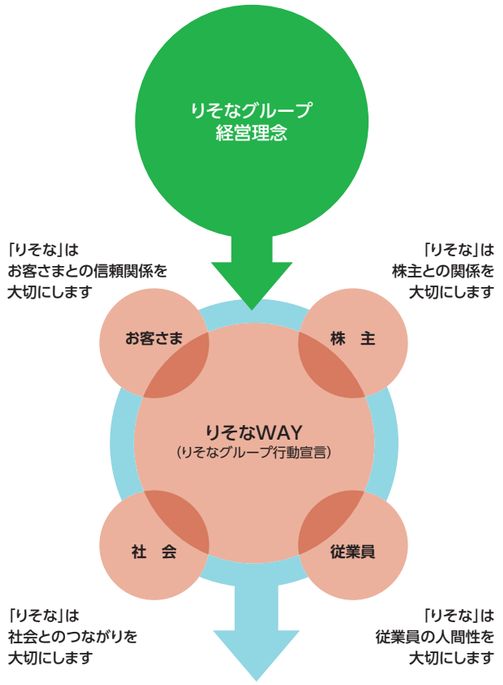
CSRマネジメントに関する基本的な考え方

<経営理念、行動宣言とCSR方針の関係>

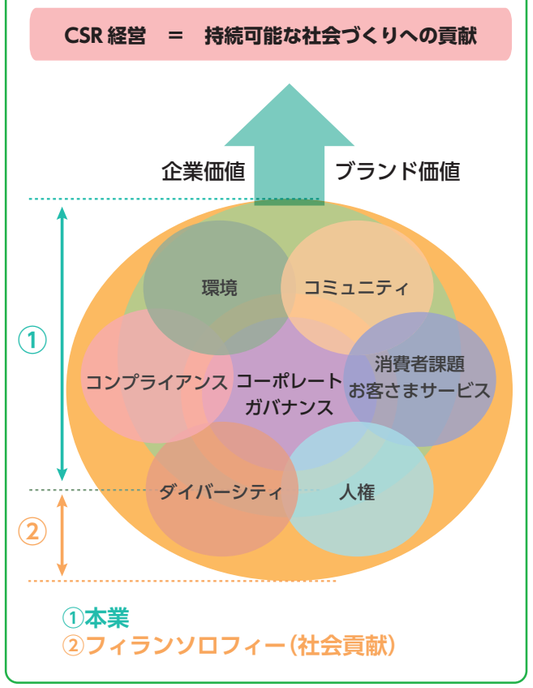
りそなグループでは、「CSR経営＝持続可能な社会づくりへの貢献」と位置づけ、全役員・従業員が進むべき方向、共有すべき価値観を示すものとして「りそなグループ経営理念」を、その基本姿勢を具体化するものとして「りそなWAY（りそなグループ行動宣言）」を定めています（→P.1）。

これらに基づき、当グループでは「企業の社会的責任に対する取り組み姿勢」を明確化するため、国際規格「ISO26000」が掲げる中核課題に沿って「りそなグループCSR方針」を定めています。この「グループCSR方針」で、明確に示した7つの社会的課題に対して「CSR目標」を定め、取り組みを推進しています。

■ 経営理念、行動宣言とCSR方針の関係



■ CSR経営の概念図



りそなグループCSR方針

課題項目	方針
コーポレートガバナンス	責任ある経営体制および経営に対する監視・監督機能の強化に努め、すべてのステークホルダーに対する説明責任を果たします。
人権	当社が影響を及ぼすお客さま、株主、従業員等、すべてのステークホルダーの基本的人権を尊重する企業風土・職場環境を醸成します。
ダイバーシティ	職場における能力開発の機会を通じた人材育成および成果の公正な評価とダイバーシティの組織風土の定着を推進します。
コンプライアンス	法令・ルール・社会規範の遵守を通じて、すべてのステークホルダーに対して責任ある企業活動を行います。
消費者課題/お客さまサービス	お客さまの大切な個人情報・資産を守り、一人ひとりの立場に立った質の高い金融サービス、啓発の機会を提供します。
コミュニティ	地域との共生を大切な使命と位置づけ、自社の持つ経験・資源を活用して、社会的課題の解決に取り組みます。
環境	かけがえのない地球環境を大切にし、環境に配慮した企業活動を適切に実践します。

CSRの重点課題（マテリアリティ）

<りそなグループのCSRの重点課題>

CSRに対する社会的要請を踏まえ持続可能な社会づくりに貢献するとともに、企業価値向上に繋がる、りそなグループらしいCSRを実践するために、「地域」、「次世代」、「ダイバーシティ」、「環境」の4つを重点課題として特定し、活動を推進しています。

地域
魅力溢れる地域づくりに貢献します

次世代
次世代がいきいきと活躍できる
社会づくりに貢献します

ダイバーシティ
多様な価値観が尊重される
社会づくりに貢献します

環境
自然環境保全と循環型の
社会づくりに貢献します

■重点課題の特定プロセス

1 検討すべき社会的課題の抽出
りそなグループCSR方針で示した7つの課題（コーポレートガバナンス、人権、ダイバーシティ、コンプライアンス、消費者課題／お客さまサービス、コミュニティ、環境）に沿って、GRIガイドライン（G4）やISO26000のフレームワーク、外部評価項目等を踏まえて、22項目の社会的課題を抽出。

2 りそなグループの優位性・優先度の検討
「1」で抽出した社会的課題について、「経営理念」「経営戦略」「りそならしさ（強み、差別化、ブランド向上）」を踏まえ、優位性・優先度を検討。

3 ステークホルダーにとっての重要度の検討
外部有識者へのヒアリングを通じて、ステークホルダー（お客さま、従業員、地域社会、りそなグループの株主、投資家、政府/行政、ビジネスパートナー、NPO/NGO）の視点に立った重要度を検討。

CSRアジア 東京事務所
日本代表
赤羽 真紀子氏

日本政策投資銀行
環境・CSR部長
竹ケ原 啓介氏

いただいた主なコメント

- 全国展開する大手金融機関でありながら地域密着型にこだわり、また充実した信託機能も有していることが、地域経済の活性化に大きく貢献していると考えます。そしてこのりそならしさが、さらなる競争力や企業価値増大につながるものと期待します。
- オムニチャネル戦略の推進は、お客さまの便益の向上に加え、生産性の改善や環境負荷低減へも貢献しており、事業を通じた社会課題解決の好事例と考えます。
- 社会課題解決において、金融機能を介して経済界の環境・社会対応を促すことは金融機関のもっとも重要な活動の一つであり、投融資先の環境配慮をクレジットポリシーに盛り込んだことは評価に値すると考えます。

重点課題：地域

魅力溢れる地域づくりに貢献します

地域経済の活性化に向けた貢献

“地域社会とともに発展する”という経営理念のもと、地域のお客さまに対する円滑な資金供給や質の高い金融サービスを提供するほか、当グループのネットワークを活かしたビジネスマッチングを行うことで、お客さま同士の取引促進や技術交流等、新たなビジネスチャンス創出のお手伝いをしています。

第6回ネットワーク商談会IN大阪

「食」をテーマに各地の特色ある食材を集めた商談会で、今回は過去最多となる9都府県の企業が集結しました。

りそな“ふるさと名物”応援フェア

関西を中心とした9府県の地場名産・名物を取り扱う事業者、50先が一堂に集結し出展。一般消費者を含む約1,000名の方が来場し、地域PRにも繋がりました。

従業員一人ひとりが地域づくりに参画

従業員が主体的に地域の行事への参加やボランティア活動等、それぞれの地域ごとの課題や状況に即した活動を行っています。こうした活動は、組織の一体感醸成や従業員の社会性向上にも繋がっています。

グループ従業員のボランティア活動団体「Re:Heart倶楽部」

2012年に発足後、地域ボランティアや環境ボランティア等様々な活動を行っています。

TABLE FOR TWO

社員食堂でヘルシーメニューを注文すると、1食当たり20円が開発途上国の子どもたちの学校給食費として寄付される取り組みで、これまでに65万食を超えました。

熊本地震　被災者支援・被災地復興のための取り組み

りそなグループでは、企業として2,000万円の義援金を社会福祉法人中央共同募金会を通じて寄付したほか、以下の取り組みを実施しました。

- 義援金受付口座の開設
- 店頭募金箱の設置
- グループ銀行のポイント交換サービスを活用した義援金募集
- 被災された方向けのローン、事業者向け融資
- 従業員募金の実施

重点課題：次世代

次世代がいきいきと活躍できる社会づくりに貢献します

次世代への資産・事業承継をサポート

超高齢社会を迎え、次世代への資産承継や事業承継といった社会的課題が高まるなかで、当グループが持つ金融・信託機能を活かし、円滑かつ確実に世代間の承継がなされる社会環境づくりに向けたきめ細かなサポートを実施しています。

きょういく信託

教育資金の一括贈与にかかる贈与税がお孫さま等一人あたり1,500万円まで非課税となります。

結婚・子育て支援信託

結婚・子育て資金の一括贈与にかかる贈与税がお子さまやお孫さま等一人あたり1,000万円まで非課税となります。

資産承継信託 マイトラスト未来安心図

お客さまとお客さまの大切な方のために、ご資金を守り、未来に安心をつなぎます。

ジュニアNISA

お子さま一人あたり年間80万円までの株式投資信託や上場株式への少額投資で得られる収益が非課税となります。

※当グループでは、上場株式の取り扱いはしていません。

金融リテラシー向上への貢献

金融の仕組みの高度化・複雑化を背景に、金融に関する正しい知識を習得し、適切な判断力を身に付けることがより重要となっています。より自立的で安心かつ豊かな生活を実現するため、当グループが持つ強みやリソースを活かして、幅広く金融経済教育に取り組んでいます。

子ども向け金融経済教育「りそなキッズマネーアカデミー」

2005年にスタートし、卒業生は25,000人を超えています。

全国高校生金融経済クイズ選手権「エコノミクス甲子園」

東京、埼玉、大阪の3つの地方大会を開催し、金融知力の普及・向上に役立ててもらっています。

子どもたちのチャレンジを応援

次世代を担う子どもたちが夢や未来に向かって、その能力や可能性を最大限に発揮できるよう、子どもたちの様々なチャレンジを応援しています。

全国特別支援学校文化祭表彰式・作品展示会

りそなホールディングス東京本社で表彰式および作品展示会を開催しています。

りそな未来財団による「りそな次世代応援プロジェクト」

2015年11月に「一般財団法人りそな未来財団」を設立しました。次世代を担う子どもたちが経済的な理由で夢を諦めることがないよう、以下のような取り組みを実施していきます。

- りそな未来奨学金
- 親子の交流イベント
- シングルマザーのキャリアアップサポート

重点課題:ダイバーシティ

多様な価値観が尊重される社会づくりに貢献します

女性の活躍を応援する商品・サービスの開発

女性従業員が中心となって、女性の気持ちを形にした商品・サービスの開発を行っています。これまでに、女性特有のニーズにお応えする女性のための住宅ローンや医療保険等を商品化しています。

女性向け住宅ローン「凛 next」

オリジナル金利や繰上返済手数料無料等、背中を押してくれるうれしい特典が魅力です。

女性向け医療保険「リボンのチカラ Next」

女性特有の病気やリスク等、女性の視点で考えた保険です。

さくらそうプロジェクト報告会

「埼玉版ウーマノミクス」※に呼応する取り組みとして2015年4月に発足、店舗に「キッズスペース」一体型相談スペースを設置しました。

※埼玉県で推進している、「女性が働き手となり消費や投資の担い手となり、自己実現をしていきいきと輝く社会にする」プロジェクト

ワークライフバランスの推進

育児や介護を行っている従業員でも仕事と家庭を両立し、安心して働くことができるよう、ワークライフバランスの向上に向け様々な取り組みを実施しています。2015年10月には、新しい働き方を実現する「スマート社員」(勤務時間もしくは業務範囲を限定することができる職種)を導入、従業員は育児や介護等のライフスタイルに応じた柔軟な働き方を選択できます。

経営直轄の諮問機関「りそなウーマンズカウンシル」

2005年4月に発足、誰もが長く働き続けられるための環境づくりやキャリア形成のサポート等を経営陣に提言し、制度改革を実現してきました。

介護セミナー

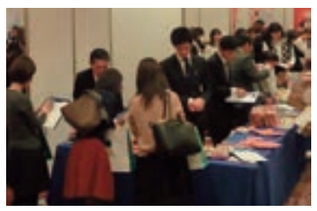
介護の基礎知識や将来の備え、仕事と介護を両立するために準備すること等について従業員向けにセミナーを開催しています。

多様な人材の活躍を支援

ライフスタイルの変化やボーダーレス化が進展するなかで、より多様な価値観や発想を活かすことのできる人材が求められています。当グループでは、そのような人材の活躍を後押しする様々な取り組みを行っています。

「Re:Woman's Meeting 2015」を開催

2015年12月、お取引先の中小企業等で働く女性のキャリアアップを支援するセミナーと、女性モニターの意見を活かして中小企業の商品開発を支援するイベントを同時に開催しました。



多様な人材活用への取り組み

プレ・マスター社員セミナー	定年を迎える従業員を対象に最長65歳まで再雇用する「マスター社員制度」への理解を深め、定年後も働き続けることへの動機づけを目的としてセミナーを開催しています。 2015年度は、グループ銀行合計で139人をマスター社員として再雇用しています。
障がい者雇用	「障害者の雇用の促進等に関する法律」に基づく法定雇用率について、2015年度はりそなグループ全体で2.11%と、目標の2%を上回る実績を計上しています。

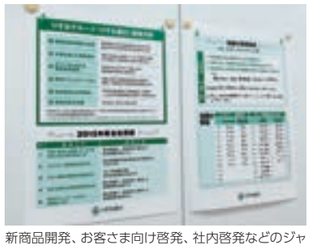
重点課題:環境

自然環境保全と循環型の社会づくりに貢献します

環境負荷軽減に向けた環境マネジメントの推進

毎年、グループ環境目標を設定し、目標達成に向けたPDCAサイクルを展開する環境マネジメントシステムを採用しています。

環境マネジメント目標の設定



新商品開発、お客さま向け啓発、社内啓発などのジャンルで各部が自主的に環境保全に関する目標を設定し、積極的な取り組みを行っています。

省エネルギー・地球温暖化防止活動

クールビスや早帰り運動の実施により、消費電力の削減に取り組んでいます。また、営業用車両のハイブリッド車への切り替えや電動アシスト自転車の導入により、ガソリン使用量の削減にも取り組んでいます。

金融機能を活かした環境負荷軽減への取り組み

環境への影響に配慮した考え方を投融資の意思決定プロセスに組み込み、環境に重大な負の影響を及ぼすおそれのある事業等への投融資は行わない一方で、環境に配慮した取り組みを積極的に支援しています。

主な法人向け制度融資

<りそな銀行>
- りそな「エコビジョン・ダイバーシティ・カンパニー」融資制度
- りそな環境対策支援ファンド
- りそな成長分野応援ファンド(環境分野)

<埼玉りそな銀行>
- 埼玉りそな環境経営応援融資
- 埼玉りそな成長分野応援融資(環境分野)
- 埼玉県エコアップ認証ローン

<近畿大阪銀行>
- 関西を元気にする近畿大阪成長分野応援ファンド
- 近畿大阪　再生可能エネルギー応援融資

企業年金向けSRIファンド

りそな銀行は、企業年金向けにESG※に配慮している外国企業等に投資する「グローバルSRI」ファンドを設定しています。外国株式で運用するSRIファンドは国内の企業年金向けでは珍しく、年金運用の選択肢を広げています。

※ESG:環境(Environmental)・社会(Social)・企業統治(Corporate Governance)

森づくりや被災地支援を通じた環境保全活動の推進

社会と共に歩む「良き企業市民」としての役割を果たすために、環境関連の様々な社会貢献活動に取り組んでいます。

「りそなの絆」被災地植樹プロジェクト

2013年3月から、東日本大震災で大きな被害を受けた海岸防災林を再生する活動をしています。

「埼玉りそなの森」づくり活動

埼玉県長瀞町や大阪府交野市で「森づくり活動」に取り組み、里山保全・生物多様性保全に貢献しています。

「近畿大阪銀行の森づくり」活動